

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>□その他（                      ）</p>
	• 対象児童生徒の課題	<p>課題：姿勢</p> <p>長い時間正しい姿勢で座ることが課題である。</p>
	• 自立活動の目標	自ら正しい姿勢で座れるようになる。
	• 上記目標に対応する区分	<p>健康の保持                      心理的な安定                      人間関係の形成</p> <p>環境の把握                      <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">身体の動き</span>                      コミュニケーション</p>
	• 支援の手立て	朝・帰りの会や授業中に正しい姿勢で座れるよう言葉かけを行う。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	言葉かけをすると正しい姿勢で座れるがすぐに横を向いてしまう。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	声かけだけでなく、隣に座って一緒に姿勢を整えると、短時間ではあるが正しい姿勢を保てた。
グループ討議	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u></p> <p>• 参考になった支援方法等</p>	視界に入ると集中ができなくなるため、カーテンなどで視界を遮り、短時間でも集中できる環境を整える支援を検討する。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	給食の時間に写真やイラストカードを見て、自ら気づけるようになった。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>成果：毎日決まったタイミング（給食時）に、写真やイラストカードを活用することで、生徒が自発的に動けるようになった。状況に応じて言葉かけもできた。</p> <p>課題：「個々の課題へのアプローチ」</p>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	少ない言葉かけで正しい姿勢で座ることができるようになる

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	身のまわりの準備等において、自発的に、次の動作に移ることが難しい。
	• 自立活動の目標	朝や帰りの準備を自分で行うことができる。
	• 上記目標に対応する区分	<input type="checkbox"/> 健康の保持 <input type="checkbox"/> 心理的な安定      人間関係の形成 <input type="checkbox"/> 環境の把握 <input type="checkbox"/> 身体の動き      コミュニケーション
	• 支援の手立て	準備の手順を、本人が確認できる場所にイラストで示しておく。必要に応じて、「次はどうする？」などの言葉かけを行う。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	初めのころは机上のイラストを自分で確認していた。朝の準備については概ね自分で進めることができるようになった。給食の準備については、今後も継続し、習慣になるようにしていくことが望ましい。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	視覚による提示に一定の効果があり、一部の行動が習慣化した。他の生徒対応により、必要な言葉かけが少なくなることがあったため、注意が必要である。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	支援の数を減らしていく手段をいくつか考えていたが、他の教員からも同様の案を出していただけだったので、確証をもって支援の継続を行うことができるようになった。
2学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化	自力での準備は難しかったが、教員が視線や指差しで伝える程度であっても取り組むことができるようになった。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<p>6年間継続してきたことから、新たに追加した課題であったため、定着には時間がかかっている。</p>
<p style="text-align: center;">ま と め</p>	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<p>目標：朝や給食前、帰りの準備を自発的に行うことができる。</p> <p>全体的に、教員からの促しののちに行動する傾向がある。朝夕は少しずつできるようになってきている。継続してとりくみ、朝夕の定着を図る。それに加えて、給食前の支援を重点的に行う。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 ■その他（ 両下肢機能障害 ）</p>
	• 対象児童生徒の課題	<p>課題：靴を左右正しく履く。 登校する際も含めて靴を左右逆に履いてくることがある。歩行も不安定なのでケガの恐れがある。</p>
	• 自立活動の目標	<p>靴を左右正しく履く。 履く際には靴を注視する。</p>
	• 上記目標に対応する区分	<p>健康の保持      心理的な安定      人間関係の形成 環境の把握      <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">身体の動き</span>      コミュニケーション</p>
	• 支援の手立て	<p>靴の履き間違えている場合には履きなおしを促す。 履く際には、靴を注視するよう言葉かけをする。</p>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<p>靴を注視するように促すと自分で気づいて靴を履き直すことができています。 靴に目印などをつける支援をするか検討中である。</p>
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<p>言葉かけをせず自分で気づき履き直すことが理想である（履いた後に違和感に気づいてほしい。）</p>
グループ討議	<p><u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等</p>	<p>SST を絡めた支援、姿勢や印をつけて本人が理解しやすいように環境設定することとトレーニングの時間を確保する。</p>
2学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化	<p>継続して言葉かけをして靴を履き直すことができています。履き間違える回数は減ってきています。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員自身の成果や課題</li> <li>・ 効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目印をつけたが定着はもう少し時間がかかる様子だった。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 履き間違えた回数が2回程度で理解していたどうか確認する機会が少なかったため、継続して行う必要がある。マスキングテープや目印シールではわかりにくいので、保護者に相談して靴に直接に目印など極端にわかりやすいものが良い。</li> </ul>



2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の様子、変化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記課題を継続することで以前よりもかかどが床に付いた状態でしゃがめる時間が長くなり、動作開始時の抵抗感が軽減している様子が見られた。また、活動への抵抗感が減り、自ら姿勢を整えようとする様子も見られた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員自身の成果や課題</li> <li>・効果的だった支援の実践方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態に合わせた指導を継続することで、身体機能の向上と活動への意欲を引き出すことができた。</li> </ul>
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の来年度の目標、課題等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、ストレッチや筋力トレーニングを継続して行うことが課題である。</li> </ul>